



## 国民に愛されたチョン書記長の国葬

7月19日、ベトナム共産党の最高指導者であるグエン・フー・チョン書記長（80）がハノイ市内の病院で死去し、25、26日に同市内で国葬が行われた。

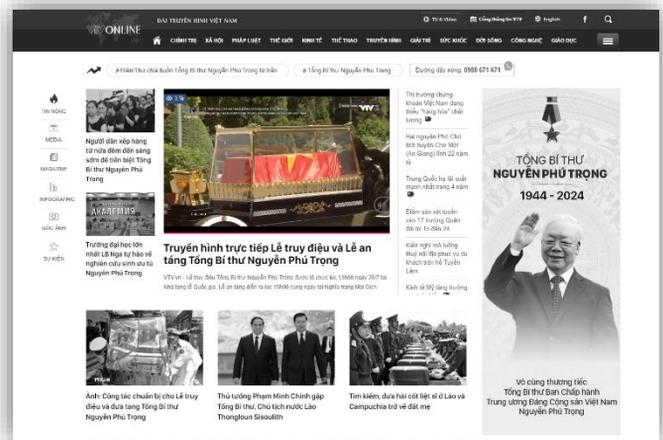
政府は国葬期間中、半旗の掲揚や娯楽の自粛などを市民に呼び掛けた。

国葬にはトー・ラム国家主席をはじめとする共産党関係者に加え、菅義偉前首相など海外要人も多く参列した。一般市民にも開放され、人々はチョン氏へ別れを告げた。25日は午後10時までの開放予定だったが、参列者が多く訪れたため、その列は深夜にまで及んだ。

交通警察は国葬終了後は会場から墓地まで遺体を運ぶために交通規制を実施し、その沿道には数千人もの市民が押しかけた。市民の中にはチョン氏の棺が見えると涙を流して感謝を伝える者も見受けられ、同氏がいかに国民から愛されていたか伝わる場面であった。



チョン氏の棺（左中央）を墓地まで運ぶ車両。※JSI撮影



弔意を表し、白黒となった国営放送（VTV）のサイト。26日には式典の様子がライブ中継された。 ※JSI撮影

### チョン氏の功績

チョン氏は2011年に序列1位の書記長に就任し、1976年の南北統一以来初の3期目を迎えていた。2018年には「建国の父」ホー・チ・ミン、チュオン・チンに続き史上3人目となる国家主席との兼務を実現した。

同氏は「バンブー外交」と呼ばれた大国との関係性を柔軟に維持する外交手法を展開し、在任期間中に中国、ロシア、インド、韓国、アメリカ、日本の6ヶ国とそれぞれ外交上の2ヶ国関係最高上位を表す包括的戦略パートナーシップを締結した。両国間の関係性が悪化している米中の2ヶ国を相手方に同格の位置づけとするベトナムのしたたかさが見て取れる。また、包括的および先進的環太平洋連携協定（CPTPP）やEUベトナム自由貿易協定（EVFTA）など多国間の貿易協定にも参加し、ベトナムの発展に従事した。

一方、内政においては透明性の高い政治を目標とし、汚職撲滅に注力。今年3月には当時国家主席であったポー・バン・トゥオン氏の更迭を実施し、2021年に発足した党最高指導部の政治局員18人のうち7人を更迭した。

チョン氏が亡くなる前日、序列2位のトー・ラム国家主席が書記長代理に指名され、国葬では政治局員の代表として弔辞を述べたことから、今後は書記長としてこれまでにチョン氏が取り組んできた内外政策を受け継ぐことが予想される。（執筆：JSI 高井）

### 免責事項

本資料は証券投資の参考となる情報の提供を目的としたものです。投資に関する最終決定は、お客様ご自身による判断でお決めください。本資料は企業取材等に基づき作成していますが、その正確性・完全性を全面的に保証するものではありません。結論は作成時点での執筆者による予測・判断の集約であり、その後の状況変化に応じて予告なく変更することがあります。執筆担当者またはジャパン証券と本レポートの対象企業との間には、重大な利益相反の関係はありません。このレポートの権利は弊社に帰属しており、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。

